



重量と脂肪の厚さを測り、数値で示すきわめて客観的な方法である。

オンタリオ州のナイアガラ半島は、昔から果物の栽培で有名だが、両州にはほかに果物や野菜、そしてタバコの栽培が盛んな所がたくさんある。その三分の一は輸出されている。果物は水はけの良い高台の地方で、タバコは砂地で作られ、野菜栽培は有機質土の所が多い。雨量はたっぷりあるが、晩春と初秋の霜害にやられる心配がある。冬の最低気温が低すぎて、果樹に被害がでることがある。

カナダでは、果物や野菜の加工産業が早くから発達した。かん詰め、冷凍、その他いろいろな加工食品が、食卓を賑わしている。とくにアスパラガス、豆類、コーン、トマトの加工が多い。最近では冷凍の重要性が増してきた。加工用の野菜は、加工業者が毎年、農家と直接契約して栽培されることが多い。冬の間は、温室以外に野菜がとれないため、生野菜は米国から輸入されている。最後に、有名なカナダの特産品、メーブル・シロップを忘れてはならない。カ

エドの木からとれる甘い樹液で、ケベック州を中心に生産され、シロップ液のほか、キャンディなどにして売られる。カナダは、世界中のメーブル製品の三分の二を産している。

BC州と大西洋岸

果実・野菜が有名



ブリティッシュ・コロンビア州は、ロッキーマOUNTAINが多い。したがって、農地は州面積の二パーセントしかなく、盆地と高原に集中している。沿岸地方では太平洋から吹きつける西風のために、冬は暖かく、夏は涼しい気候だが、内陸部に入ると、季節間の温度差が大きく、降雨量も少ない。こうした気候の差や土壌の違いによって、州内農業の姿は多種多様。特に盛んなのが牧畜と果樹栽培で、小規模で高い生産性をもつ農家が多い。

果実では、ロッキーマOUNTAIN中のオカナガン盆地が、りんご、もも、プラム、さくらんぼの生産で名高い。

りんごは、カナダで最も重要な果物である。カナダのりんごは他国産に比べて香りが強く、とりわけ加工品にすると、この特徴がよくわかる。このためカナダ産



B.C.州オカナガン盆地のりんご園

工場で作られる商品と違って、農産物の販売が、複雑な形をとっている点は、他の国々と同様である。通常の自由取引引きのほか、政府による販売や競売、契約生産、協同組合や販売委員会による方式など、産物や地域によって、種々さまざまな形態をとる。

農産物の流通経路

牛の売買は、公営の家畜市場でセリにかけられる場合が多い。農家から直接、食肉工場に行くこともあれば輸出に回されることもある。豚は通常、生産者の地域別販売委員会

会が扱う。食用鶏、鶏卵、七面鳥は、全国組織の販売団体が生産目標値を決め、販売をコントロールしている。飲用乳の販売は、州が管理し、州の販売機関が品質、価格、集配方法を決める。飲用乳と加工用原料乳の比率配分についても、カナダ酪農委員会の指導のもとに、州の販売機関が決定する仕組み。

穀物は、小麦、大麦、からす麦をカナダ小麦局が担当し、その他のライ麦、ソバ、油糧種子などは自由に取引引きされている。じゃがいもなどの野菜・果実類の場合、販売委員会、生産者団体、協同組合が買い取る契約生産方式も多い。

りんごジュース、アップルソース、アップルパイ用詰め物、冷凍スライスなどは、内外で人気が高い。現在、朝食のシリアルなどにかけて食べる香味エッセンスなど、いろいろな新製品の開発が進められている。

大西洋岸にある四つの小さな州は、全般的に丘陵地が多く、土地は腐葉質で比較的肥えている。気候は概して温順だが、ラブラドル半島沿岸を下ってくる寒流と北方からの寒風の影響も無視できない。降水量は年間千ミリ前後と、かなり多い。混合農業が一般的だが、牧草が豊富なため畜産や酪農が盛んである。半農半漁や半農半林の農家も見られる。ニュー・ブランズウィック州と、プリンス・エドワード・アイランド州とは、

じゃがいもでも有名。とくに種じゃがいもは、海外でも人気が高い。ノバ・スコシア州とニューファンドラント州は、農業に適した土地は限られている。酪農と養鶏が盛んで、最近では肉牛もふえつつある。また、アナポリス盆地（ノバ・スコシア州）のりんごがよく知られており、近年はブルーベリーも有名になってきた。一部野生のものも含め、ノバ・スコシアのブルーベリーは、大半が輸出されている。カナダ北方は夏の日照時間が長く、この期間は植物の育成が速い。しかし霜の少ない時期は短く、しかも住民がこく少ないために、農業開発はなかなか進まない。農産物の大部分は、南部カナダに依存しているのが現状である。